

会議録

令和5年度 第2回市川市男女共同参画推進審議会	
開催日時 令和6年1月26日(木) 10時00分～11時50分 開催場所 男女共同参画センター 5階 研修室AB	
相良会長	<p>ただ今より、令和5年度第2回市川市男女共同参画推進審議会を開会いたします。本日は、現在15名中11名の委員が出席されており、市川市男女共同参画社会基本条例施行規則第5条第5項の規定により、委員の半数以上が出席しておりますので、本会議は成立いたしました。</p> <p>また、会議は公開することが原則とされており、本日の議題はいずれも非公開情報に該当する事項がないことから、公開とすることに賛成の方は挙手をお願いいたします。</p>
委員一同	【了承】
相良会長	<p>会議は公開とすることが決定いたしました。</p> <p>それでは、傍聴人が入室します。</p>
傍聴人	【入室】
相良会長	<p>それでは、次第により会議を進めたいと思いますが、始めに、本日、委嘱後初めて出席された委員の方から、ご紹介も兼ねて一言ご挨拶をいただければと思います。座席順にお願いしたいと思います。</p>
相高委員	<p>第1回は欠席致しました、ハローワーク市川で求人企画部門の統括職業指導官をしております相高と申します。どうぞよろしくお願いいたします。1回目は仕事の関係で欠席をしてしまい申し訳ございませんでした。今後ともよろしくお願いいたします。</p>
相良会長	新部委員をお願いします。
新部委員	<p>おはようございます。初めまして。市川第四中学校校長の新部と申します。校長会を代表して参加させていただきました。1回目は学校行事と重なりまして欠席致しました。よろしくお願いいたします。</p>
相良会長	<p>ありがとうございました。それでは、審議を始めたいと思います。</p> <p>議題1「市川市男女共同参画に関する市民意識調査について」です。</p> <p>事務局から説明をお願いいたします。</p>
石川課長	<p>はい。私は多様性社会推進課長の石川と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは議題1、(1)市川市男女共同参画に関する市民意識調査についてご説明させていただきます。</p> <p>現行の市川市男女共同参画基本計画は、計画期間18年の基本計画として平成20年に策定されたもので、令和7年度で計画期間が満了となります。</p> <p>今後、新たな基本計画の策定に当たり、市民の男女共同参画に関する意識及び実態を把握し、計画の基本方針の方向性や取り組み内容等に反映させるための基礎調査として、令和6年度中に市民意識調査を実施するものです。</p> <p>資料1-1をご覧ください。</p>

最上段に年度と月数を表示しています。

資料中段をご覧ください。

市民意識調査、以下、「アンケート」とさせていただきます、アンケートのスケジュールといたしましては、来年度の8月にインターネットシステムを利用したWEBアンケートとして実施する予定です。

具体的な方式としては、一つは、「LOGO フォーム」という本市がDXの取り組みの一つとして導入した庁内外向けのシステムで、オンラインで各種申請・調査・アンケート等が行えるものです。

もう一つは、市が運営する登録制のアンケート制度である「eモニター制度」を活用したアンケートです。「eモニター制度」を活用したアンケートは、毎年「男女共同参画」と「DV」についての意識調査を行い、その結果を年次報告で活用させていただいておりますので、当審議会でも馴染みが深いものと考えております。

アンケート実施後は、事務局職員がデータ集計、分析、報告書の作成を行い、来年度2回目の審議会においてご報告させていただき、次期基本計画の策定方針等についてご審議いただく予定です。

次に資料下段をご覧ください。

次期基本計画及び次期実施計画の策定スケジュールです。

アンケートの結果をもとに、新たな基本計画と実施計画を同時進行で策定作業していく必要があります。スケジュール上に「パブコメ」とありますが、これは略称であり、正式には「パブリックコメント」と標記します。

補足させていただきますと、パブリックコメント手続きとは、市が計画などを策定するときに、案の段階で公表し、その案に対する意見などを募集し、寄せられた意見なども考慮しながら案を決定するとともに、意見などに対する市の考え方も公表していく制度です。

現在の計画期間における成果を踏まえるとともに、社会情勢の変化による新しい課題に対応するため、令和8年度から始まる新しい基本計画を策定していきます。

なお、本日はアンケートについてご審議いただき、次期基本計画の内容等につきましては、来年度以降の議題とさせていただきますのでご了承ください。

続きまして、資料 1-2「男女共同参画に関する市民意識調査の設問」をご覧ください。

先ほど申しましたとおり、本アンケートを基礎資料とし、経年変化を把握する必要があることから、前回の設問を基本としつつ、社会の状況並びに国及び県の動向等を反映し、国や県の施策との比較や連動しやすいような設問としております。設問内容につきましては、属性を含み、全31問で、基本計画の主要課題をベースとして構成しました。

1 男女共同参画全般について 2問、2 家庭について 5問、3 地域活動について 2問、4 少子化について 1問、5 職業について 7問、6 DVについて 6問、7 市川市男女共同参画センターについて 2問、8 行政

に期待することについて 1問、9 自由記入欄 1問、10 属性 4問、の全31問としております。

最初から少し説明させていただきますと、問1～2は、男女共同参画全般への意識に関する質問です。

基本計画の主要課題である、あらゆる分野への男女共同参画の促進、男女共同参画の意識づくりと教育の推進に対して、家庭や職場、学校、地域、政治、など社会全体として男女の地位が平等になっているか。男女共同参画に関する用語や法律についての認知度を確認します。

続いて、問3～7は、家庭生活に関する質問です。

基本計画の主要課題である、ワーク・ライフ・バランスの推進による職場における男女共同参画の実現、男女が協力し、支えあう家庭の確立と福祉の充実に対する質問で、婚姻状況や就労状況から、家事の役割分担の理想と現実、介護等についての状況を把握します。

続いて問8、9は、地域活動に関する質問です。

主要課題の、あらゆる分野への男女共同参画の推進、生涯を通じた健康支援、男女共同参画社会の形成を目指す国際的協調の推進に対する質問で、1年の間に地域活動を通して行われた男女共同参画の取り組みを把握するとともに、どのような理由で地域活動に参加されなかったのかを質問し、課題を探ります。

問10は、少子化に関する質問です。

主要課題の、男女が協力し、支え合う家庭の確立と福祉の充実に対する質問で、出生率が低下している原因を把握し、必要な施策の検討資料とします。

続いて問11～17は、職業に関する質問です。

主要課題の、ワーク・ライフ・バランスの推進による職場における男女共同参画の実現に対する質問で、勤務形態や、職場での性差、仕事や家庭生活、地域・個人の生活の優先度などについて質問し、男女が共に働き続けるための社会環境や、雇用環境などを把握します。

続いて問18～23は、DV（配偶者からの暴力）に関する質問です。

主要課題の、人権を侵害する暴力の根絶に対する質問です。暴力の有無や相談先についての情報などを質問し、暴力を許さない社会づくりにむけた検討課題を抽出します。

問24、25は、市川市男女共同参画センターに関する質問です。

主要課題のあらゆる分野への男女共同参画の推進、男女共同参画の意識づくりと教育の推進、生涯を通じた健康支援に対する質問です。男女共同参画社会実現の拠点である、当センターの利活用を促進するためのニーズを把握します。

続きまして、問26は、行政への期待に関する質問です。

主要課題の、男女共同参画を推進する体制の整備に関する質問です。

最後に、自由記載欄として、男女共同参画についてのご意見を伺います。

その他、集計及び分析するために性別、年齢、世帯構成、子どもの有無などの属性を伺います。性別については、前回男女のみであったものに、その他、無回答を追加しております。

	<p>主な変更点としては、設問2において、多様性に関する用語である「LGBTQ+」への認識や、若年層の性被害の温床となっている「JKビジネス」、その他男女共同参画やDV防止に関連する法令関係の用語を追加しています。</p> <p>また、設問23、24の間に、前回のアンケートでは、社会全体の性や暴力に関する道徳観・倫理観への意識調査として、メディアにおける性・暴力表現の設問を行っていましたが、前回のアンケートと比較し、性暴力を許さないという意識は社会全体として高まってきていることから、今回は削除しています。</p> <p>その他、いくつかの字句について社会情勢を反映して、現状に即した表現に改めております。</p> <p>最後に、資料1-3 男女共同参画に関する市民意識調査比較一覧をご覧ください。左から、今回実施予定のアンケート、その右隣りが前回のアンケート、さらに隣が千葉県、国となっており、該当箇所を抜粋してありまして、アンケートを比較できるようにしております。</p> <p>説明は以上となります。ご審議の程、よろしくお願い致します。</p>
相良会長	事務局からの説明は終わりました。何かご意見はございますか。
松本委員	<p>アンケート案の作成等ありがとうございます。</p> <p>問3の家庭状況や最後の属性のところについて、「結婚している」とありますが、同性カップルの方も回答しやすいように、「同性異性問わずパートナーと同居している方も含みます」としていただくとより実態に近いアンケート結果が得られるかと思えます。</p> <p>問10の少子化の設問において、回答の選択肢に「結婚したいと思っているけれども相手が見つからない」という理由も追加するとよいのではないかと思います。現在、日本の少子化対策は正社員向けの育児支援になってしまっていて、非正規の方や経済的に必ずしも恵まれていない方向けの育児支援になっていないという部分もちょっとあったりもするので、まずは結婚したいと思っているけど、経済的な理由であったり、何らかの理由で相手が見つかっていないため独身という方も回答しやすいようにしていただければと思います。</p> <p>私の子供の頃の話になってしまうのですが、私は地方出身で、放課後は近所の神社の裏で同級生の友達とかくれんぼや鬼ごっこをしたりして遊んでいました。先日帰省した際に、実家の母に子どものころ、ここでよく鬼ごっこをしたんだよ、という話をしたところ、そんなことは全然知らなかったと。母は働いていたため、日中家にいなかったということもあったのですが、子供たち同士で約束して遊んでいたことを知らなかった。恐らく専業主婦のお母さんも知らなかったと思います。</p> <p>ただ、今の時代にそれをしてしまうと、子どもたちだけで遊びに行かせるのは何かと、大騒ぎになってしまう可能性があり、そういった意味でも、昔に比べて子育てに対しての親の負担感は増えてきているのではないかと思います。子供が交通事故に遭ってしまったという件数は減ってきているとは思いますが、その分、親だったり大人だったり常にか子供の行動を見ていないといけないっていうものとの裏返しになってきているので、責任が重くなってきてい</p>

	<p>るというのはあるかと思えます。そういう意味で子育てに、昔よりも時間もとられるし、手間もとられるというところが出てきているんじゃないかと思えます。</p> <p>私の身内の話ばかりになり申し訳ないのですが、妹夫婦が最初は子供は1人だけにしておこうと考えていたそうです。それに対して、うちの母は、「子供が複数人いると、学費などは確かに人数分かかってしまうが、子供が複数いた方が、子供同士、兄弟同士で遊んでくれるので、実は親は育児の負担が減る。子供1人だと、どうしても親がずっと遊び相手をしなければならない。子どもが複数いる方が、実は子育ては楽ができるんだよ」という話をして、妹夫婦は、色々話し合った結果、考えを変えたということがありました。子どもが複数いることのメリットというものがあまり言われてないかなっていうのもあるかとは思えます。子育ての負担感が重い、子どもを産めば産むほど大変になっていくのだというイメージがちょっと強いかなという風に考えております。以上です。</p>
相良会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>振り返りさせていただきますと、問3について、同性異性に関係なくということ、問10について少子化について、子育てについて親の負担感が昔と違って大きく重くなった、兄弟が多いとかえって負担も大きいんじゃないかという誤ったイメージがあるのではないかというご意見をいただきました。</p> <p>これについて何かご意見ございますでしょうか。</p>
丸谷副会長	<p>問3も問10も、松本委員の仰るとおりだと思います。ですが、問3の方で、問3自体の話なんですけども、「結婚していて共働き」「結婚しているが共働きでない」とあり、「結婚しているが共働きでない」という設問を読んだとき、結婚していて、共働きしているのが1番のスタンダードであると感じて、2以降が、結婚しているのだけでも共働きしていない、要はネガティブな印象を受けるので、「結婚していて共働きでない」「結婚していて2人とも働いていない」のように、「が」という書き方は使わない方が読んだ方にとって受け入れやすいのかなと思いました。以上です。</p>
相良会長	<p>ありがとうございました。今の件についてご意見ございますか。松本委員お願いします。</p>
松本委員	<p>いまのお話を聞いて確かに、と思いました。</p> <p>私が感じたのは、設問の最後の方に属性を尋ねられているのですが、属性の質問を先にして、早めの段階で答えてしまうと、私が70歳くらいだったとして、仮に結婚していたとします、先に70歳ですと回答した上で、働いていたけど夫婦ともにリタイヤしました、今は働いていませんと答えるのは心理的に抵抗は無いかなと思えます。比率で言うと今は単身者の比率が1番高い時代に入ってしまったかなと思えます。世代で言うと、20代30代で結婚していると、今一時的に子育てのために仕事を離れていますという回答は十分ありうるかと思えますし、50代くらいになって手を離れてきたので共働きですという回答もしやすいかと思えます。あとは、結婚しているかどうかという回答と、今の就労状況を別に</p>

	聞いてしまうのもありかと思えます。以上です。
相良会長	ありがとうございます。私も賛成です。問3は結婚していることと、働くということが混じっているので、どちらかという属性のところで結婚しているか否か、働いているか否かを聞けばカバーできるのではないかと思います。 他にご意見ございますか。では西依委員お願いします。
西依委員	ちょっと教えていただきたいのですが、私は霞が関に対する不信感というのがベースにあるのですが、この資料1-3を見ますと国でこういう仕事をやって、県でこういう仕事をやって、市でこういう仕事をやる。そういうことですかね。このアンケートを作るにも国で大枠を作って県でそれを少しブレイクダウンして市でさらに細分化されたアンケートを作る、そういう仕組みになっているのですか。
稲垣主幹	国・県も計画を立てておまして、計画を立てるにあたって世論調査をしています。市としても今回計画を立てるにあたって意向調査という形でさせていただいて、国全体で見ると市川市独自の傾向というのをこの調査で見たいというところです。
西依委員	いろいろ事情はあるのですが、仕事を重複してやっているように見えます。今の霞が関の下請けにはならないように気を付けていただきたいです。市は市でちゃんとした仕事をやっていただく、実質有効な業務をやっていただくことを期待します。同じようなことなんですが、アンケートシステムの作成というのは、これも市の仕事としてあるわけですか。システムくらい国で作れよと言いたいわけですが。これは全国で同じように作るのでしょうか。
稲垣主幹	各自治体でアンケートの取り方というのは違いますが、今回市川市の場合は先ほどご説明させていただきましたとおり、eモニターを利用したもの、LOGOフォームと言って二次元コードを読み取って回答をするものを考えているのですが、LOGOフォームは他課においてもアンケートをするときに使っているもので、項目、設問を入れていけばできるような形になっております。
西依委員	とても無駄を感じます。国、それか少なくとも県でそのくらいまとめてほしいという気がします。いろいろな仕事を下へ下へ押し付けるというか、分担させるというか。そういうのは、とても損害だと思います。
相良会長	ありがとうございます。松本委員お願いします。
松本委員	先日LOGOフォームを早速使わせていただいて市の講座に申し込みできました。すごく使いやすいフォームだと思います。市の講座とか、講演会とか申し込む時は、電話で申し込まなければいけない時は静かな場所できちんと雑音が入らないような場所を選んで電話しなければという心理的な制約があったんですけど、LOGOフォームを導入していただいたのでそれこそ通勤電車の途中で読み込んで申し込みができるのでとても助かっております。すごくいい取り組みだと思います。あとLINEの女性相談も早速、お世話にならないのが一番だと思いつつも友達登録させていただきました。ちょっとやってみて、提案しておきながら申し訳なかったのですが、いたずら目的のご相談がおきてしまったときの対応がもしか

	<p>したら出てきてしまうかもしれない。しかし、なかなか電話ではうまく伝えられないとか、言葉を紡ぎだすのに時間がかかってしまう人も、LINE相談でしたら相談しやすくなっていくと思いますので、取り組んでいただきありがとうございます。</p> <p>あと行政の国と県と市で重複してしまうという問題はいろいろ良い面悪い面あるとは思いますが、私同性パートナーの制度に関わらせていただいて、市川市の職員がみなさん尽力してくださったので、このまま国のレベルで採用してもらっても良いかなと思うくらいの制度で良い仕事をさせていただいたと思っておりますので、感謝しております。実際に自治体でトライアルとしてやっていき、良いところ悪いところを出してから国の制度として採用されていくというものももしかしたらあるかもしれないと思うので、重複することもいいところはあるし、うまく使い分けていければいいなと思っております。以上です。</p>
相良委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>初めて参加される委員の方もいらっしゃると思いますので、LOGOフォームというのは何なのか説明してくださると助かります。お願いします。</p>
澁谷副主幹	<p>LOGOフォームというシステムについてご説明させていただきます。LOGOフォームは、市川市独自のシステムではなくて、民間が開発した自治体向けのシステムで、特にセキュリティ面において安心して使うことができるものです。DXの一環として市川市に導入され、庁内職員向けのアンケートなどにも活用しております。今後は、市民の皆様が電子申請など様々な手続きが利用できるように発展していけば良いなというところで活用しているものです。また、市川市のみならず、全国的に使える自治体を増やしていこうという取組をしていると聞いておりますのでより広がっていくと考えています。</p> <p>私達がアンケートの実施に際し考えたのは、今まで市川市は男女共同参画に関する意識調査は全て紙でやっておりました。三千名程度に、住民票から無作為抽出を行い、アンケートを郵送し、ご回答いただいたものを手入力するという作業を行っていたのですが、LOGOフォームを使うことによりまして、システム上である程度データを集めることができるので、職員側としても集計がしやすくなります。一方で、市民の皆様がLOGOフォームにどうやって目をつけていただくかというのがとても大事で、目に触れていただかないとアンケートを回答することができないので、今考えておりますのが市の広報『広報いちかわ』を見ていただいたことがあるかと思うのですが、その広報紙の中に、よく見ていただきますとQRコードのようなものがついていることが最近増えていると思います。それを読み取っていただくと、アンケートシステムに入っていけるというような、そういったものになっております。先ほど松本委員からお話がありました講座の申し込みなど、様々なものに使わせていただいております。後程、参考として最近の広報紙をご提示しますのでご高覧ください。目に触れるというのがとても大事なので、広報紙だけでは足りないと思っております。市のXですとか、Facebook、LINEといったSNSにLOGOフォームでアンケートを行っておりますという周知を平行して行っていきたいと思っております。以上でございます。</p>

相良会長	<p>ご説明ありがとうございます。</p> <p>それでは、市民意識調査に戻りまして、他に何かありますか。松尾委員お願いします。</p>
松尾委員	<p>今のご説明に対してなんですが、そのLOGOフォームを使うということはいつでも誰でも入っていけるということですよ。そうするとその男女の比率だとか、地域性だとか世代だとかそういうものをある程度、市の方で縛ってということではないと思うので、そうすると今の説明でおっしゃっていた通り、いかに皆さんが目につくところに、数多く入っていけるような仕組みを考えていただけるのかというのが、大切になってくると思うので、そこは十分、このアンケートをとる際には、工夫していただきたいなというのをひとつ申し上げておきたいと思いました。</p> <p>それともう1点だけ、この設問の中の子供の教育という意味で、いろいろ細かく含まれてるいのかもしれないですが、ちょっと質問の中に子供の教育という面があまりちょっと目につかなかったのですがその辺の考え方をちょっと伺っておきたいと思います。</p>
相良会長	では事務局お願いします。
稲垣主幹	<p>子どもの教育についての質問は入っていないところですが、基本的には前回、平成20年に現在の基本計画を立てる際に使用しましたアンケートをもとに、県や国の設問を参考に今回設問案を考えたところになります。そのため委員の皆さんから、このような設問が必要ですか、ちょっと設問数も多いのもうちょっと答えやすいようなアンケートにというご意見もいただければ、検討させていただいて、反映させていただきたいと考えております。</p>
石川課長	<p>子どもの教育を入れるとしたら、どういったことを聞くようなイメージを持っていますか。</p>
松尾委員	<p>男女共同参画という意味で学校現場であったり、就学前の子どもであったり、そういう機会が十分なのかとか、社会の仕組みとして足りているのかとかそういった傾向の設問があっても良いのかなと思いました。</p>
相良会長	他はどうでしょうか。西依委員お願いします。
西依委員	<p>念のためもう一度言っておきたいのですが、ひとりひとりの方は極めて熱心に真面目に仕事をやってらっしゃるわけですよ。今回も、この市川で良いシステムで作られようとしていると思うんですけども、それが船橋でも、柏でも全部やってるわけですよ。だから、ありえないことだと思うのです、普通に考えて。だから県が例えばまとめてプロジェクトを作るから各市1人ずつ出してねとかね、そういうやり方だったらわかるんですけども、各市、各自治体で、これまた全部各々作業しろ、いうのはとんでもないロスだと思うんですよ。だから、そういうところをきちんと見直していただきたい、ということが申し上げたいと思います。</p>
相良会長	はい、松本委員お願いします。
松本委員	<p>保育サービス等が足りているか、ということについて身近にお話しした方</p>

	<p>から悩みを聞いたことがあって、待機児童の名目上はゼロになったけれど、実際に預けようと思った時に、車で15分程度運転しないと預け先がないとか、近くの保育園がちょっと自分の収入では高すぎるからもう少し安いところ、教育内容もそこそこでいいからもう少し手ごろな価格の保育園に預けたいけれど、選べるのは近くて高いか、遠くて安いのか、みたいなお話を聞いたことがあります。</p> <p>私も姪の面倒を見ているときに、小さな子どもを抱えて保育園に行くときは、できれば徒歩15分以内に預けられる保育園でないと、結構つらいものがあると思います。大人だったら、30分ぐらいなら自転車で行けばいいかなとか、電車乗ったりバス乗ったりでもいいかなって思うんですけど、小さな子供を保育園に預けるとなると、徒歩15分圏内の保育園に入れられるというところになってようやく子育てしやすい環境が整ってるなと感じられるかなと思います。なかなか、今、保育政策等も必死に頑張ってもらっているとありますが、実情としてはこれはユーザー、利用者さんとしては、申し訳ないけれども徒歩15分圏内に欲しいなっていうのは実感としてあります。</p> <p>あと、外部サービス、家事についての外部サービスの利用についてどう思うか、使ってもいいんじゃないかと思っているのか、家庭に外部の手を入れるのは良くないことだっていうふうに考えているのか。外部サービスに、より肯定的なのかそうでないのか。私が言っている外部サービスというのは家事代行をイメージしてるんですけど、家事代行の利用に関して、肯定的なのか否定的なのか。そういうのをうまく使えてますかみたいな質問もあっていいのかなと思います。</p> <p>あと県の方でまとめてやるっていう話で、私は昔ジョブカフェに通っていたことがあるんですね。大学卒業してからなかなかちょっと働けるほどの体力がなくて、病気で闘病していましたので。都道府県に1か所ジョブカフェがあるっていうのは知っていたんですけどもその時の体力からすると、遠方のジョブカフェだったら利用できなかったなと思ってます。電車で一本で、2,30分程度でいけるジョブカフェだったので、お世話になっていたんですけど、長距離の移動ができないってなると、やっぱり近隣のすぐアクセスできる、行きやすい場所の身近なところに頼ってしまうというのはどうしてもあるので、どうしてもそういう福祉的なところは身近なところというのは、ニーズとしてあるかと思います。以上です。</p>
相良会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>今の松本委員のお話はもしかして、問10の少子化の理由とか、あるいは結婚した後も働き続けるためにどういうことが必要だと思えますかという問11あたりに加えることが出来る気がしますかどうかでしょうか、事務局お願いします。</p>
稲垣主幹	<p>設問の中に入ることができるかどうかについては、検討させていただきたいと思います。</p> <p>先ほどの教育について、男女共同参画にかかる教育というような意味合いでよろしいですか。</p>

相良会長	よろしいでしょうか。
松尾委員	はい。
相良会長	ありがとうございます。それでは西依委員の意見に戻りますが、県で行っている調査というのはもちろん、市川市の市民も入っていますよね。
稲垣主幹	県全域ですので、県のアンケートの方にも市内の市民の方も答えるような形になってるかと思いますが、今回の市川市のアンケートは、無作為抽出してその文書を各市民の方に送るといった方式ではなく、関心のある皆さんに回答いただけるような形で行いたいと考えております。アンケートが無作為抽出で文書を送る方式ですと答えたくても答えられない方がいらっしゃる可能性があるかなど。今手元に資料がなく県のアンケートがこういった形で行われているか、お答えできないのですが、今回市川市の方はそういった抽出されていない方も答えることが可能な形でしたいと思っております。
西依委員	県は県で全県にアンケートを発するのですか。県は県で、市は市でこのアンケートを行うのですか。
稲垣主幹	設問自体は全く同じというわけではなく、県でも男女共同参画の計画を立てていまして、その計画を立てるにあたって意向調査をしている形です。
西依委員	だから、どうしてそこまでやる必要があるんですかね。わからないですね。たかが調査ですよ。たかがと言っては申し訳ないのですが、たかが調査であってDOではないのです。DOはきめ細かく現場現場でやらなきゃいけないけれども、調査ってのはまとめて普通やるものでしょう。市場調査なんて本社がやってランチがやるなんてことはありえない。だから、要するにそれが仕事になっちゃうんです。だからそれは仕事じゃなくてあくまで仕事をやるための前調査でしょう。だから、そういう位置付けをしっかりとここはもう県全体でやればいいねとかね、そういうふうにやっていかないと。本当にすごいロスしていると思いますよ。よろしく申し上げます本当に。
相良会長	はい、松本委員お願いします。
松本委員	私はまさにアンケートに答えたいけどなかなか答える機会が巡ってこないタイプの人間なんですけれども、市川市のアンケートは結構LINEで、例えば食育に関して、食事等についてのアンケートがきたので、気軽に答えられたりとか性的マイノリティに関する政策も確かLINEで来ていたので私回答して、協議会にいたっていうのもあったんですけど、割と市のアンケートは身近だし答えやすいし、関心があれば、気軽に意見が出ていいかなと私は思っております。あとビジネスの話であれば、それこそマーケットの市場のあるところ、お客さんになってくるところに、ニーズの調査に行つてその方たちに行き届くようになっていうふうになるんですけども、行政はどうしても地域性がすごく大きいと思うんですよね。私地方の出身なので、子供のころから洪水対策を叩きこまれたみたいな教育を受けてきたんですけどそれはまた山間部の方に住んでいると防災っていうところに対しても一番注意点が変わってくるでしょうし、千葉県の中でも、市川市でしたり、浦安、柏、船橋、松戸、千葉市の都内に勤務する

	<p>人の多い地域とそうではなくて、ちょっと農業メインにやってらっしゃる自治体とで、やっぱり実情だったりニーズだったりっていうのは違うと思います。地域の住民のきめ細やかなニーズにこたえていけるのが、やっぱり市町村の良いところかなと思っているので、引き続きよろしくお願いたします。</p>
西依委員	<p>全然違いますね。全然違う意見をお互い言っているのですが、D0は細かくやんなきゃいけないですよ。だけど調査は大きくくりでいいと思いますよ。だから、それが仕事になっちゃいけないんです。D0をきめ細かくやるための前処理に過ぎないんですから。そこにあんまり力を入れるっていうのは大変なロスだというふうにしか思えません。繰り返しになります。</p>
相良会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それに関してですが、インターネットで調査をするということを考えますと、実は私も仕事で多くのいろいろな調査をしてるんですが、項目が多すぎるような気がするんですね。そうするとインターネットの回答率がすごく悪いんですよ。調査の項目を見てみると非常に細かいので、県とか、そういうところでやってると重なってればその部分を削り、できるだけ少なくして、いろんな方々の意見を吸収できるような調査にすると、市川市の独自の意見がすいとれるのかなという気がします。あと自由回答をもうちょっと大きくして、自由回答で市民の意見をすいとるっていうようなことを、おやりになるといいのかなっていうふうに思います。結局調査というのは、一般的なことしかわからないし、しかもこんなにいっぱいだと、熱心な方しか回答できないということになって非常にサンプルとして偏るんですよ。ですので、もう少し市民の方が答えやすい、たとえばほとんど自由回答だとか、そういうふうにするとうりやうくなるのかなっていう気がしております。</p>
本橋委員	<p>本橋と申します。アンケートの取り方に関してなんですけれども、そのLOGOフォーム等のインターネットとかLINEとか身近な方法でアンケートの集計をするっていうメリットはとても感じはするんですが、ただそうするとやっぱり偏りが出ないかなっていうのがありまして、例えば、日頃あまりネットとかスマホとかを使わない高齢の世代からの、このアンケートの属性のところは70代80代以上とあってありますけど多分そういうところからの回答がかなり減るんじゃないかなと。あと自分で関心を持ってアクセスして回答するっていう方法だと、アンケートのタイトルが男女共同参画に関する市民意識調査ってなると、そこにすごく関心がある方は自分でアクセスするかもしれませんが、あまり関心がない方とか、あとこのタイトルだと、女性の回答の方が多くなりそうだなとか、そういう逆にその無作為抽出の配られたものに、とりあえず書いて出すっていうのだと、日頃関心がなくても来たから書いてみるかみたいな感じで、偏りが少なく、回答が得られるかもしれないですし、そういうメリットデメリットあると思うので、もうちょっと手間が増えるかもしれないんですが併用してやるとかできた方が、回答の質が上がるんじゃないかなというのは、率直に思います。それが実現できるかどうかはちょっと、その両方やるとそれが手間が倍になりますので、大変なのかもしれませんが。あとは例えば</p>

	<p>ネットだけでやるとかだとそういう偏りが出てるのかもしれないなっていう視点でアンケートを検証したりとかっていう作業は、必要になってくるのではないかなというふうに感じました。以上です。</p>
相良会長	<p>ありがとうございます。では丸谷副会長お願いします。</p>
丸谷副会長	<p>本橋委員と同じことを思ったところです。やはり保育所の調査をしてもすぐ便利になりまして必要な情報をとりやすくなったということはあるのですが、現役の世代であってもその使い勝手というところではハードルが高くなってしまうと、できてもしないという人もいるのかなと思いました。そうすると量が多いと2、3問やってその後は難しいわというふうになってしまうので、国の調査も活用できるところは活用した上で調査を行うことが望ましいのかなと思いました。</p> <p>また先ほど松尾委員の子供への教育というところで、まずどこでどんな教育を受けたのかという内容と、その内容はどんな内容かということが柱になるのかなと思いました。また、10代であれば、学校とか、集団に依頼できるところが無いのかなと思いました。以上です。</p>
相良会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の意見に関して何かありますか。はい、お願いします。</p>
新部委員	<p>まず学校の話はあとにして、アンケートというところで考えてみたんですけど、1番欲しいのは、20代とか、これから結婚する人たちの数字がないと何の意味もないと思います。なので偏ってもしようがないと思うんですけど、そっちの子たちの意見とか思いを拾っていく方法を考えた方がいいと思います。今の大学生がこの広報のQRコードをとって、自分でこのアンケートやるかと言ったらやる子はいないと思います。その子たちの意見が本当は欲しいのに、そのやり方だと多分、もう子育てが終わって少し時間がある我々世代が少しやるくらいの回答しか取れないと思います。もうちょっと取り方を工夫した方が良く思っています。内容は、皆さまの言っているとおりだと思います。あとは学校の中学生レベルの話になりますが、市教育委員会でも、このようなアンケートを子供にとります。それを学校から考えると教育委員会からのアンケートだらけになってしまっているのが現状です。ですので、やっぱり横の繋がりをとっていただいて、教育委員会でやるアンケートの中にこの部分だけいれてくれという形でやるとか工夫をすれば、こどもの意見を取り入れるというのは可能だと思います。以上です。</p>
相良会長	<p>ありがとうございます。他に何かご意見がある方、松本委員お願いします。</p>
松本委員	<p>それでいうと10代20代の人意見が欲しい部分に関してはうまくその人たちにアプローチできるように、少子化に関して言うと、もう今実際に子供を産んでいたり、これから産みます、育ててますって母子手帳をもらう段階であったり、保育園の申し込みであったりところで行政との関わりができるので、そこでその子育てについてどんなことに困ってますかとか、こういう支援が欲しいですっていうアンケートを、そこでちょっと人数を調査できるといいかなと思います。逆にまだ働いていない学生さんに関して職業経験のことだったり、</p>

	<p>男性が家庭や地域社会の活動に時間がないっていうのをまだ働いていない学生さんに聞いても仕方がないところもあったりするかなと思います。あとアンケート項目が多くて自由記述を増やしたらいいんじゃないかというお話に関しては私も賛成で、ちょっとアンケートを読んだ時にちょっとこれはどうかなって思ったのはいくつかあるんですが、例えば問6とかは関わる時間が少ないと思う人は、どういったところが原因になってますか。それが解消できたら、育児や介護に関わるといいますかという自由記述にさせていただいて、その記述内容を集計するのがすごい手間になってしまって大変なんですけれど、問6でしたり問10、13、15、17のあたりは自由記述に来た方が答えやすいし、実態に即した答えが出てくるのではないかなと思います。番号をもう一度お伝えしますと、問6、問10、問13、問15、問17に関しては、自由記述で実際に何が困っているのかっていうのを自由に書いていただいた方が、より実態に近いものが、いただけるのではないかなと思います。特にありませんとか、支障を感じていませんっていう方は回答を外していただいてもいいんじゃないかなと思います。以上です。</p>
相良会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>松本委員から、実際にその子育て世代に答えてもらうための回答場所の工夫と、あと実際に具体的な質問、自由記述にした方がいいかというところで提案がございました。事務局の方、ではいかがでしょうか。</p>
石川課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>自由記述に関しては、例えば設問6番ですと、その他具体的に、という設問も用意してますし、なるべく答えやすいようなアンケートにしていきたいと思えます。今回アンケートを取る方法を2つご用意する予定で、1つはLOGOフォームで自分で答えに行くような形のもの、eモニター制度、毎年やっていますけれども、eモニター制度に関しては、こちらから、紙ではないですけれども、データとしてメールで答えてくださいというアプローチをして答えていただくような形になっておまして、登録人数も9千人近くおられます。また年代もかなり幅広く、若い方も、70代80代の方も登録しておまして、実績としてもそういった年齢層の方から回答をいただいていますので、年代の幅広さという点にはある程度カバーできるのかなと思っております。</p> <p>また、特定の年齢層を特に、という形ではなく幅広くとっていきたく思っております。学校への依頼というご提案はあったのですが、LOGOフォームの方はなるべく目に留まるというのが一番大切なことだと思っておりますので、SNSという媒体だけではなく、少しでも違う方向からも目に留まってもらえるように周知していきたいと思えます。やり方はこのあと検討していきたいと思っております。</p>
相良会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の事務局の回答について、何かご意見ございますでしょうか。はい、お願いします。</p>
丸谷副会長	<p>今事務局の方からのお話で、20代を含めて、ということでした。支援の対象は</p>

	<p>20代30代だと思うのですが、支援する側の意識も大切かなというところでは、子育ての相談を受けていても、その世帯は貴重な戦力として今は位置づけられているんですね。やはり考え方の差というところで、その考え方の差を聞くぐらいなら、たとえば民間のサポートを使った方が良いとか、もう会いたくないとか関係が近いだけに軋轢があったりするところでは、親の世代の意識というのも支援に繋がるために必要なのかなと思いました。</p>
相良会長	<p>ありがとうございます。はい、松本委員お願いします。</p>
松本委員	<p>世代間ギャップは私の実家の方でも話題になるんですけど、先日私ファミリーサポートの研修を受けて参りまして、そこでいろいろ座学で教えていただいたりとかしたときに、おかげでちょっと私も親族とのつき合いはうまくなりそうですっていうのは思いました。1つ、サポートセンターで言われてすごく有意義なお話だったなって思ったのが、まずよかれと思ってお子さんのお世話をするときに、まずは保護者に一言言ってください、例えば公園連れていこうと思うんですけどいいですかねって一言言ってあげると、保護者の方は最初に知らされているので、いいですよって形になります。それを言わないで、勝手に連れていっちゃうと、私はそんなこと聞いてなかったっていうことでトラブルになってしまうので、まずは親御さんに一言伝えてください。こうしたいんですけどいいですかってお話しすればトラブルになることは少ないんですって言われてすごく安心できました。そういう意味でちょっと祖父母世代は、ファミリーサポーターとして活躍するってことではなくても一度ファミリーサポートセンターの研修内容を一応知っておくっていうのはすごく有益じゃないかなと思いました。以上です。</p>
相良会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>いろいろとご意見が出ておりますが、いかがでしょうかこのアンケートについて、まだまだ意見が、何か出てきそうな気がするんですけども。</p> <p>これ以外のことで、何かご意見がありましたら、ぜひお願いいたします</p>
松本委員	<p>生理用品の配布ありがとうございます。ただ行徳エリアに住んでいるものとしては行徳のエリアから男女共同参画センターに来るまでの交通費で生理用品が買ってしまうなというのがあるので、もし防災用品の入れ替えっていう形で配布していただければ、行徳エリアにも、配布場所を作っていただくとありがたいかなと思います。行徳エリアから市川駅の男女共同参画センターまで来る交通費があつたら買えるよねって思ってしまうので。困難な女性に対する支援の方の資料もいただいてありがたいんですけど、お金の使い方の教育っていうのをもしかしたら今までよりもきめ細かくしていかないといけない時代に、なったのかなというふうに思います。別件ですけども、ファイナンシャルプランナーの先生のお話を聞いていたときに老後の2千万円問題で騒がれていますけれども、今まで高齢者が、その老後2千万円に苦労してなかったかっていうとそうじゃなくって、今まで老後資金が必要ですよってことを教えられてこなかったんです。今若い人たちがちょっとショックを受けて、そんなにお金を貯めておかなければいけないのかって、ストレスを感じるかもしれない</p>

	<p>んですけど、逆に早めに教えてもらえてよかったねっていうふうに受けとめてもらえればいいと思いますって言われて、なるほど確かに今まで教えてもらえなかったなっていうふうに思ったことがあります。</p> <p>あとアンケートの方に戻るんですけど、問16、女性が仕事を持つことについてのことなんですけれども、ちょっと読んでたときに、私自身は働いてはいるんですけど、仕事をしたい人はすればいいし、家庭や地域に活躍していく方が向いていて、それで生活できている人に関しては、別に全然専業主婦でも構わないんじゃないかなと個人的には思っています。あと問の15に関しては有給休暇がきちんと取れるでしたり、時間休の制度があったりっていうのがあると、結構ワークライフバランスは実現しやすいかなあとと思います。待遇面での話、育休、介護休暇取れるってのはすごい大事なんですけど、有給休暇をちゃんと取れるっていうのがあると、ちょっとしたことで休める。介護で休んだけれど、介護休暇を取るほどじゃないから有給休暇が使いたいですっていうのは私の周りでも、ちらほら見たりするので、有給休暇をフレキシブルに取れるっていうのも大事なかなと思います。あと問13なんですけれども、私が20代の頃はよくあった話ではあるんですけど、正社員正規職員の方は、産休育休をとって、きちんと復帰ができるけれど、派遣社員が同じことをしようとすると派遣切りにあってしまうっていうのを、今でも耳にしたりします。そうすると、ただでさえいつかは雇用が打ち切りになってしまうかもしれないっていう不安定さの上に、それならもう復帰できないんだなってなると結構つらいものがあるって、1人頑張ってる産んだとしてもちょっと2人目っていうところにはいかないかなというのを感じております。以上です。</p>
相良会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ちょっと、問2については、どういうご意見でしたか再度確認させてください。</p>
松本委員	<p>問2の方ではなくて、問15のあたりです。働き方が仕事、家庭、地域活動等を理想的なバランスでやれるようにっていうのは有給休暇をきちんと取れる、自分の都合のいいタイミングでとれたり、あと時間休の制度があるとありがたいなと思います。ちょっとデイサービスに対応してて、親御さんをデイサービスに送って1、2時間ちょっと遅刻していきますっていうことができたり、1、2時間が早く早退しますっていうことが、世の中全体でできるようになっていくと、両立のしやすさが結構上がっていくかなと思います。</p>
相良会長	<p>すみません、ありがとうございます。</p> <p>このアンケートについて、何か他にどんな細かいことでもいいので、お気づきのことがあればお願いいたします。</p>
澁谷副主幹	<p>事務局の方から補足をさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
相良会長	<p>はい、お願いします。</p>
澁谷副主幹	<p>様々なご意見をいただき、ありがとうございます。まさにこれから新しい計画を作っていく中で、新しい視点でのご意見を頂戴したかったのでとてもありがたく思っております。そういった面がある一方で、今回のアンケートは18年間に及ぶ長い基本計画の評価と言いますか、計画を立てたときにもアンケート</p>

	<p>を実施しております、18年経過して、市川市民の意識がどのように変わってきたのかというのを見たいというところもあって、設問数が多いというところの課題があるのですが、同じような設問で比較をするというのも必要なかと思っていたところでした。ただ、その中でも全く同じにする必要はないと思っておりまして、本日いただいたご意見を参考に、不要な物は削る、新しい視点のものは組み込んでいく、それと今回、かなりアンケート期間が空いてしまったので、このような状態になっているのですが、もう少し短い期間での意識調査も必要なか事務局の方も思っておりますので、その点も考慮していただきながら、アンケートを見ていただけますと、ありがたく思います。以上です。</p>
相良会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私の方から気が付いた点としては、1つは問2が余りにも項目数が多いので、過去のデータがあるのであれば、よく知っている方が多いという項目を減らして、新しい項目を入れるとか、或いはほとんど今の現代でもあまり知られていないという言葉は消した方がいいのかなど。私も知らないくてなんだろうというふうに思った項目もあったので、例えば、JKビジネスって何でしょうか。ということであまり知らないことがあるとあまり答えたくなくなるような気がするんですね。ここの項目は限定した方がいいのかなって思いました。とにかく全体的に回答の項目は多すぎるっていうのがあって、比較する上で何を比較するのかっていうのをまず絞り込んだ方がいいのかなという気がします。あと非常に細かいもので申し訳ないんですが問4のアというのが、食事の支度後片付けごみ出しでごみ出しが入っているんですね。でも他のところでは、ごみ出しは入っていないので、しかもごみ出しは食事の支度と後片付けとは全然違うレベルの作業だと思いますのでこれは間違いでしょうか。</p>
澁谷副主幹	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>ごみ出しについては、どちらかと言えば食事を作って後片付けをした中で、出るごみをごみステーションに持っていくという一連の流れで考えておりましたが、会長からご意見がいただいた通り、あまりに多すぎる選択肢は答えにくいというところもありますので、ここは削っても問題無いかと思っております。それともう一つ、前のご意見にもありました、問2の設問がかなり多いというところで、まさにご指摘のとおりでございます、今回スから下を新たに加えております。基本的な男女共同参画に関する事項というところで、この設問をしている自治体が多いので、同じようにどのくらい知っていて、知らないのかというのを把握して、知らなかった部分について、後々の実施計画等で事業として補充していく必要があるんじゃないかっていうのを見つけるために、用語を入れているのですが、用語はもう一度見直しをするとともに、わかりにくい用語につきましては、簡単な定義のようなものを事前に書いておくなど、工夫を考えたいと思います。以上です。</p>
相良会長	<p>ありがとうございます。他に、はい松本委員お願いします。</p>
松本委員	<p>問2に関しては私が回答者だったら、ちょっとこの問2を見た瞬間に私ちょっ</p>

	と回答する資格ないなと思って離脱しちゃうかなと思います。ちょっと話が前後してしまうのですが、回答する前に、全部で何問ぐらいあります、回答に要する時間は何分ぐらいを目安にしていますっていうのを書いていただくと、3分ぐらいで終わるなら今回答しちゃおうとか、逆にちょっと10分ぐらい見といた方がいいなら後で一息ついてからにしようとかっていうのを回答者が考えてタイミングを選べると思います。あと回答のしやすさでいうと先に属性を聞いてしまって、年齢とか性別とか、今結婚していますか働いていますかというのを回答しちゃってから、最後の方で意識的な話、問1問2の話を最後の方へ持ってくると、回答のハードルが大分下がったと思います。
相良委員	ありがとうございます。事務局からお願いします。
澁谷副主幹	今回は前回との比較をしやすいように属性を後ろに持ってきてしまったのですが、今システムで作成しているアンケートは属性を最初に持ってきたり、用語の説明やアンケートの趣旨というところから始めようと思っております。属性につきましても、委員の皆様からご意見いただきましたとおり、結婚している・していないですとか、そういった部分の設問を少し増やして、アンケートの部分は少なくしていけるように工夫したいと思います。
丸谷副会長	食事の支度、後片付け、ごみ出しと、たまたまなんですけど、昨年市川市民の方に食育についてのアンケートをご協力いただきまして、その時、お父さんの1番やっていないのは食事の支度、1番やっているのはごみ出しとなっていたので、同じ選択肢にあるとどうしたら良いのかなと思うのですね。選択肢を分けるかどうかした方が良いと思いました。それとやってみて思ったのが、問5なんですけど、1週間の平均時間、これを1週間でならして1日10分と書くのか、1週間でも3時間手伝う時と全く手伝えない時とあるとした場合にどちらを書けば良いのかなというのが迷ったところなので、それが書かれていると助かります。
澁谷副主幹	ここもシステム上で集計する時にこういう書き方ですと、集計が難しいので、実際には、1週間で何分くらいやりますかというのをもう少し細かく30分とか1時間とか2時間とかの形で選択制のアンケートにしようかなと考えております。
丸谷副会長	それは、月から日曜までの時間を足した時間ということですか。
澁谷副主幹	今検討しておりますが、そのようなイメージもあります。
丸谷副会長	それを平均して書くのかなとも思いました。
澁谷副主幹	再度検討し、回答しやすいように検討してまいります。
丸谷副会長	問7のところ、イなんですけれども、「結婚は個人の自由を束縛するものだから、一生結婚しない方がよい」の「一生」はいれなくても良いのではないかと。あとクのところ、「結婚していても相手に満足できない時は、離婚すればよい」でここでも満足とは何だろうと思ったので、「結婚していても離婚する選択肢もある」というような内容で良いのではないかなと思いました。それと、問12なんですけど、以前とったアンケートで同じような形態で聞いたのですけれども、その他のフリーランスという回答がとても多くて、フリーランスとは何なんだろうと思ったことがありまして、もしかしたら自営業のところにフリーランスを加える

	とか、若い人は自分のことをフリーランスと思っている人が多いことがわかったので、選択肢に加えると良いかないと思いました。以上です。
相良会長	具体的なご指摘ありがとうございます。では佐野委員お願いします。
佐野委員	アンケートに直接関係はないんですけども、これだけアンケートをされて、18年間の成果を見るというお話でしたので、ぜひですね、分析をされて、この後に基本計画に反映されると思うんですけども、アンケートをとったことで、それが確実に反映されて、より良い男女共同参画社会になるようなものが大事なので、ぜひそのところをお願いしたいと思います。
相良会長	ありがとうございました。いかがでしょうか、事務局からは何かございますか。
稲垣主幹	ご意見ありがとうございます。今回アンケートをどのように計画に反映させていくか、また、その計画をもとにどのように課題を解決するため、事業に反映させていくか考えていきたいと思います。
相良会長	それではそろそろ時間にもなりました。ご意見は以上でよろしいでしょうか。ありがとうございました。では、事務局からお願いします。
石川課長	議題2、その他についてです。報告事項が4点ございます。 資料2-1 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律の一部を改正する法律（概要）をご覧ください。 DV防止法が一部改正され、令和6年4月1日から施行されます。配偶者等からの暴力への対策の強化として、保護命令制度の拡充・保護命令違反の厳罰化されます。接近禁止命令等の申立てができる被害者の範囲の拡大、接近禁止命令期間の延長、電話等禁止命令の対象行為等の追加など、の改正がなされています。なお、保護命令は、被害者の性別は問いません。内閣府男女共同参画局の資料によりますと、同性カップル間の暴力についても対象となった例があります。 次に、資料2-2 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律のポイントをご覧ください。 困難な問題を抱える女性支援の根拠法を、「売春をなすおそれのある女子の保護更生」を目的とする売春防止法から脱却させ、支援対象者が、意思を尊重されながら、置かれた状況に応じて、きめ細やかで、支援対象者に寄り添いつながり続ける支援を受けることにより、福祉が増進され、自立して暮らしていける社会の実現が同法の目的とされています。また、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により、日常生活または社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える、あるいは抱える恐れのある女性が支援の対象となりました。女性であることにより、性的な被害に遭遇しやすいこと、予期せぬ妊娠等の女性特有の問題が存在すること、不安定な就労状況や経済的困窮、孤立などの社会経済的困難等に陥る恐れがあること等を前提としており、年齢、障がいの有無、国籍を問わず支援の対象とします。市町村に求められている役割分担としては、「最も身近な相談先」としての役割を果たすとともに、必要な支援の包括的な提供、他機関や他自治体等へのつなぎ等があります。また、本市の女性相談員には「婦人相談員」を委嘱しておりましたが、新法の施行に伴い委嘱名称が「女性相談支援員」となります。

	<p>続きまして、資料 2-3 市川市・SNS による女性相談、資料 2-4 生理用品の無償配布についてです。</p> <p>お手元の資料は、それぞれの事業の周知用のチラシでございます。コロナ禍以降、家族の生活スタイルが変化し、テレワークの増加から、DV の有様も大きく変わってきております。日中、夫に監視され電話相談や外出ができない、声が出せない方の相談先として、地域女性活躍交付金を活用し、SNS (LINE) を用いた相談事業を開始しています。もちろん、DV 以外の困りごとにも相談可能ですので、若年層を含め、電話相談ではハードルが高いと感じている方でも、相談の入り口として活用が広がればと思っています。さらに、生涯にわたる健康への支援として、同じく交付金を活用し、様々な事情で生理用品の用意が難しい方に、生理用品を無償配布しております。制度が広がるよう、周知等行っていく予定です。報告は、以上となります。</p>
相良会長	<p>ありがとうございました。事務局からの説明は終わりました。何かご意見はございますか。ではちょっと質問ですが、生理用品をお配りしていますというこの活動は市内中高の学校とかに配布されてるんですか。</p>
石川課長	<p>市立中学校の保健室に置いて配布できるよう、昨年の12月くらいに各学校にお渡ししています。</p>
相良会長	<p>ありがとうございました。他に何か、ご質問、ご意見ございますか。松本委員お願いします。</p>
松本委員	<p>生理用品の配布から少し外れてしまうかもしれないのですが、実際災害が起こったときに、備蓄品として生理用品は備えていただいているのでしょうか。</p>
澁谷副主幹	<p>危機管理部門で別途予算を確保していきまして、防災備蓄品として生理用品の確保がなされています。パッキングの袋に特殊な加工をされた生理用品になっておりまして、私達が配布している一般に販売されている生理用品というのは、製造からおよそ3年程度という目安があるのですが、備蓄品の場合はもっと保存可能な期間が長いもので、昼夜兼用タイプの羽根つきというところで、最も必要とされるような形、羽が無かったり、短いものというよりも、緊急的な場合ですので、長い時間でも使いやすいものというところで備えられていると報告を受けております。以上です。</p>
松本委員	<p>ありがとうございます。</p>
相良会長	<p>それでは、その他の報告事項について、ご意見、ご質問は以上でよろしいですか。では、その他、委員の方々から何かございますか。松本委員お願いします。</p>
松本委員	<p>単純に私が無知なんですけど最近のニュース等で性被害に関してはジャニーズ事務所の件でかなり世間の認識が変わったなと思いますし、ホストにはまってしまっただけで売春に誘導されてしまう女性の問題も、私もネットの記事、1人のブロガーさんが書いてるときに、これかなり大きな問題だなと思ってたんですけど、あっという間に国レベルで取り上げられるようになっていたので、そのスピードが結構驚いています。困難を抱える問題は昔に比べるとまた世の中の状況が変わっ</p>

	<p>てきたりとか、働く女性が当たり前になってきた中で、結構見えてくるようになってきた部分もあるかと思えます。昔だったら専業主婦で、うまく社会の中に内包されていたものが、だんだんそれが女性の働くのが当たり前になってきて家庭のセーフティネットから外れていったりってところも少しずつ増えてきているのかなとは思えます。社会に出て生きていくことが20年前30年前だったらここまで高いレベルが要求されなかったよねっていうのが今要求されてしまっているというのがあるかと思って、それに対して市民の立場でも、何かお手伝いできることがあればなというのは常々思っております。以上です。</p>
相良会長	<p>ありがとうございました。他にご意見があればお願いします。無いようですので、事務局からお願いします。</p>
稲垣主幹	<p>この度は貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。次回の審議会につきましては、6月の開催を予定しております。引き続き、お忙しいとは存じますが、ご出席をしていただければと思っております。よろしく願いいたします。先ほど紹介させていただきました、LOGOフォームの二次元コードについて、後ろの方に広報を置かせていただきますので、お帰りの際にご参考までにご確認いただければと思えます。事務局からは以上になります。</p>
相良会長	<p>会議録作成についてお知らせいたします。本日の会議録につきましては、事務局で案を作成し、委員の皆様を確認をしていただいた後に、ホームページ等で公表していく予定となっておりますので、ご協力をお願いします。それではこれをもちまして、令和5年度第2回市川市男女共同参画推進審議会を閉会いたします。皆さま、お疲れ様でございました。</p>

令和6年3月13日

市川市男女共同参画推進審議会会長

署名 相良 順子